

価値高い旧警察署

今月、旧長崎警察署の内部を詳しく見ることができた。建物完成時の新聞記事と突き合わせると、一部に手が入ってはいるものの、警察署当時の構造や部屋の配置を確認することができた。

警察署の移転後にもし県が使用していなければ、建物は多分なくなっていただろう。大正期から昭和初期の鉄筋コンクリート（RC）造警察庁舎は1970年代まで多くが建て替えられ、全国に10カ所ほどしか残っていない。その中で、23（大正12）年に完成し、現存するRC建造で国内最古の旧警察庁舎。被

長崎総合科学大教授

山田 由香里氏



爆建物でもあり、歴史的な建物としても貴重な。

設計者は現在調査中だが、県の建築技師が手掛けた可能性が高い。当時の地方自治体の建築

やまだ・ゆかり 1973年生まれ。横浜市出身。神奈川大学院博士課程修了。平戸市教委、長崎総合科学大准教授などを経て2016年から同大工学部工学科建築学コース教授。専門は建築史。

技師は内務省の役人だった。長崎県の建築技師として11（明治44）年完成の3代目県庁舎などを設計し、その後、横浜市の初代建築課長を務めた山田七五郎の下で影響を受けた人が携わったのではないかと推測される。3代目県庁舎は原爆で焼失したが、旧長崎警察署は同県庁舎のデザインを意識して隣に建てられている。建物が残れば原爆前の一帯の壮麗な景観がしのべる。

耐震などの課題があるが、今例えば改修を含めて自治体ではなく運営団体が担うなど、全国でいろんな手法が行われている。長崎ではまだ、そうした先進的な手法は導入されていないが、歴史的な街では古い建物を残した方が稼げるのではないかと。県都の一等地にあり、ぜひ保存・活用を実現してほしい。